2. 英国：中央省庁における生成AI活用による内部業務効率化（文書作成・要約・分析）の取組

(1). 事例の詳細

英国政府全体では、近年さまざまな省庁や機関で生成 AI の試験導入や活用が進められており、業務効率化や国民サービス向上への期待が高まっている。中央省庁の内部業務を支援するために、内閣府・デジタル局（Central Digital and Data Office : CDDO）主導で複数の生成 AI ツールを組み合わせたパッケージ（コードネーム「Humphrey」）が開発され、政策立案や文書整理に活用されている。2024 年に発表された「Humphrey（ハンフリー）」は、内閣府・中央デジタルデータ局と科学技術省（Department for Science, Innovation & Technology : DSIT）が共同で進める「Modern Government」ブループリントの一環として開発されたもので、複数の AI アプリケーションを組み合わせ、官僚の事務作業を支援している⁵⁰。「Humphrey（ハンフリー）」導入の目的は、職員が大量の文書やデータを扱う負担を軽減し、意思決定やサービス提供を迅速化することにある。生成 AI 活用による文章要約やデータ分類によって職員の作業時間短縮や人的ミス削減が見込まれており、人員配置の最適化やコスト削減への波及効果も期待されている。

(2). 生成AIパッケージの主な機能と技術的特徴

「Humphrey（ハンフリー）」パッケージの一部は既に運用段階にあり、他も順次すべての公務員が利用できるよう提供予定とされている⁵¹。2024 年 1 月の発表イベントでは、以下 5 つのツールに参与した開発担当の官僚らが実際のデモンストレーションを行い、現職の職員からも「大幅な業務効率化につながる」と期待の声が上がった。以下に 5 つの機能を列挙する⁵²。

① Consult

政府が実施する意見公募（Consultation）に寄せられた多数の回答文を AI で分析・要約するツール。本来人手で膨大な時間をかけて読み込む作業が大幅に短縮可能となった。科学技術大臣ピーター・カイル氏は「政府では毎年何千もの意見募集を行っており、従来は対応に非常に時間がかかっていたが、AI を使えば人間よりもはるかに高速かつ低コストで分析できる」とその効果を強調した。

Consult は「政府の意見募集回答分析の手法を劇的に合理化する」と評価されており、実際に人手よりも高速かつ安価に処理できることが確認されている。

② Parlex

国会議事録（何十年分もの審議発言記録）を横断検索・分析するためのツール。政策立案者はこのツールを使って関連する過去の議会討論を素早く調査でき、膨大なテキストから必要な論点や前例を抽出することが可能となった。

⁵⁰ <https://www.gov.uk/government/publications/a-blueprint-for-modern-digital-government>

⁵¹ <https://www.globalgovernmentforum.com/wp-content/uploads/UK-Digital-Leaders-Study-2024.pdf>

⁵² <https://www.gov.uk/government/publications/a-blueprint-for-modern-digital-government>

③ Minute

会議の音声を AI が文字起こし（議事録化）し、要点をまとめてくれるツール。セキュリティが確保された環境で動作し、利用部署ごとにカスタマイズ可能なサマリーを自動生成する。会議録の作成や共有が迅速になり、後述の効果測定では「会議運営の改善点の発見」にも役立っている。

④ Lex

法律や規制文書をリサーチする支援ツール。複雑な課題に対して関連する法令や条項を AI がリストアップし、要点を整理して提示する。法務担当者が広範囲の法令集や解釈資料にあたる手間を減らし、より短時間で法的検討が行えることを狙いとしている。

⑤ Redbox

日々の政策文書の要約作成やブリーフィング資料のドラフト作成を助ける生成 AI アシスタント。大量の専門文書から重要点を抽出し、所定のフォーマットで要約を作成する機能を備えている。Redbox は内閣府が中心となって開発しており、既に一部の公務員には提供開始されている。例えば政府のデジタル分野リーダー調査報告書では、この Redbox を使ってインタビュー記録を要約し分析に役立てたとのことで、実務レベルで活用が進んでいる。

Redbox は国際通商省（DBT）など他省庁から人材を出向させて開発を後押しするなど政府横断のプロジェクトとなっており、その生産性向上効果を定量評価するためのプライベート β テストも計画されている。

上述した事例で用いられている生成 AI には、自然言語処理（NLP）分野の大規模言語モデル（LLM）が使われている。Consult や Redbox は長文テキストの要約が主要な機能であり、これらは LLM が得意とするタスクである。

(3). 職員の業務改善・効率化への影響

「Humphrey（ハンフリー）」のツール群の活用により、職員の業務改善・効率化への影響が報告されている⁵³。

① Consult

従来数週間かけていた意見公募結果のとりまとめが数日に短縮できる見込みとなった。

② Minute

会議録作成に費やす人手が減り、その分他の業務に人員を充てることが可能となった。

③ Redbox

政策ブリーフ作成を高速化し、新任スタッフでも短時間で質の高い要約を作れるため、職員研修の観点からも効率化につながった。

⁵³ <https://www.nao.org.uk/wp-content/uploads/2024/03/use-of-artificial-intelligence-in-government.pdf>

④ Parlex、Lex

過去の国会審議や関連法令の調査が迅速化することで、政策立案サイクル全体の短縮が期待できる。

総じて、「Humphrey（ハンフリー）」によって「行政のスピード」が上がりつつあると言える。英国政府は2023年秋の声明で、AI活用により公共部門で数十億ポンド規模の生産性向上が可能と試算しており、今回の「Humphrey（ハンフリー）」ツール群はそれを裏付ける第一歩となっている。

(4). セキュリティやデータプライバシーの確保への取組

生成AIの導入に際しては、法的・倫理的な課題とプライバシー保護に十分な配慮が払われている。まずデータ保護に関して、英国はEU一般データ保護規則（GDPR）に相当する独自法を有しており、政府機関もこれを遵守する義務がある。生成AI利用にあたっては「機密情報や個人データを入力してはならない」という原則が明確に示されており⁵⁴、2023年に中央デジタルデータ局（CDDO）が公表した「生成AI利用に関するガイダンス」では、全公務員に対し機密情報や未公開の政策意図などを外部のAIツールに入力しないよう厳命している。利用時の注意書きでも「個人情報を入力しないこと」と明示されている。このように、プライバシー保護策は技術的・運用的に多重に講じられており、生成AI活用がデータ漏洩やプライバシー侵害を招かないよう慎重が期されている。

法的な責任分界に関しても検討が進んでいる。英国政府は現時点でEUのような包括的AI規制法は制定していないが、既存の法体系下でAIの利用を管理しようとする立場を取っている。例えば、行政判断にAIを用いる場合でも、最終決定は人間が行う（Meaningful Human Controlの確保）ことが強調されている。2024年1月にはCDDOから「HMG向け生成AIフレームワーク」が発表され、「法的かつ倫理的かつ責任あるAI利用」の10原則が示された。その中で特に、「重要な局面では人間による十分なコントロールを維持すること」や「AIの限界を理解した上で使うこと」が主張されている。LLMの限界として、「個人的な経験や感情を持たず文脈を完全に理解しない」「もっともらしい結果を出すよう設計されているため誤りを犯し得る」といった点が明記されており、職員には過信せず慎重に扱うよう求めている。このフレームワーク文書は「現時点では不完全で今後更新が必要」とされており、技術の進歩や実践知見に応じて柔軟に規範をアップデートしていく方針である。

英国政府機構での生成AI活用は、法規制の整備が追いつかない中でも自主的なガバナンスと既存法の枠組み内での運用工夫によって進められている。GDPRをはじめとするデータ保護法制の遵守、透明性確保のための情報開示、そして何より「人間のコントロール下でAIを使う」という原則の堅持が基本姿勢である。こうした取組により、プライバシー侵害や差別的アウトプットなどへの対策を講じつつ、生成AIの利点を公共サービス改善に活かそうとしている。政府内では研修やガイドライン整備も進み、公務員がリスクを理解した上で好奇心を持って新技術を試せる文化醸成が図られている。英国政府は「AI時代の行政モデル」を世界に先駆けて模索する存在であり、その成果と教訓は今後のAI政策の方向性に大きな影響を与えていくことが想定される⁵⁵。

⁵⁴ <https://www.gov.uk/government/publications/guidance-to-civil-servants-on-use-of-generative-ai/guidance-to-civil-servants-on-use-of-generative-ai>

⁵⁵ 同上